

演題番号：7

演題名：平滑筋肉腫との鑑別に苦慮した牛の筋線維芽細胞肉腫

発表者名：○川田敬子、服部千夏、宜保公子、中村正治

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

筋線維芽細胞肉腫は筋線維芽細胞への分化を示す稀な悪性腫瘍で、近年、ヒトで報告が散見されているが、動物での報告はほとんどない。今回、肉眼・組織学的所見から筋線維芽細胞肉腫を疑ったが、平滑筋肉腫との鑑別に苦慮した牛の症例に遭遇したので、その概要を報告する。

3. 材料及び方法

症例牛は、黒毛和種、雌、124カ月齢で、1カ月前から右大腿部が腫脹し熱感著明、食欲低下、起立困難の診断で平成27年1月29日に病畜として搬入された。当該牛の病変部等を定法に従い、HE染色、アザン染色、PTAH染色、鍍銀染色、抗Cytokeratin (AE1/AE3)・抗Vimentin・抗 α SMA・抗Desmin・抗S-100蛋白・抗第Ⅷ因子関連抗原・抗平滑筋ミオシン・抗カルデスモンの各種抗体による免疫染色を行った。

3. 結果

肉眼所見：右骨盤腔内の腰部から大腿部の筋にかけて、硬結感を呈し、厚い被膜に覆われた乳白色～赤褐色・小児頭大の腫瘤塊を認め、断面では豊富な結合織が混在していた。左右内腸骨リンパ節は高度に腫大し、同様の病巣を示した。直径0.5～2cm・類円形の白色結節を肝臓の包膜下及び実質内に複数個、肺包膜下に1個、第4胃付近に2個認め、腹膜には小豆大～米粒大の白色結節の局所的な密発を認めた。

組織所見：腫瘍細胞は弱好酸性、紡錘形～多形性で、豊富な結合組織を伴い周囲に浸潤しながら束状・不規則に増殖していた。細胞密度は疎で水腫状あるいは粘液様の基質がみられた。核は淡明、類円形～短紡錘形で、核仁は明瞭、核分裂像が散見された。腫瘍細胞の一部がアザン染色で赤染、PTAH染色で青藍色を呈し、1～数個ごとに豊富な膠原線維に取り囲まれ、鍍銀染色では一部に好銀線維がみられた。免疫染色ではVimentin及び α SMA陽性、Cytokeratin (AE1/AE3)・Desmin・S-100蛋白・第Ⅷ因子・平滑筋ミオシン・カルデスモン陰性を示した。以上より、診断名を筋線維芽細胞肉腫とした。

4. 考察

筋線維芽細胞肉腫と低分化な平滑筋肉腫は類似した組織学的・免疫組織学的特徴を示すことから、筋線維芽細胞肉腫の確定診断には電頭的な確認が望ましいが、電頭を設置していない施設も多い。ヒトで用いられる抗平滑筋ミオシン及び抗カルデスモンは平滑筋への分化を示す細胞で発現がみられ、筋線維芽細胞では発現がみられないことが報告されている。そこで、これらの抗体を用いた免疫染色による鑑別を検討したところ、牛の正常平滑筋細胞及び既知の平滑筋肉腫で陽性を示し、牛の平滑筋肉腫と筋線維芽細胞肉腫の鑑別において有用であった。本症例は肉眼・組織学的特徴と平滑筋ミオシン及びカルデスモンが陰性を示したことから、現在の動物の腫瘍分類にはないが、筋線維芽細胞肉腫と診断した。今後は症例数を増やし、さらなる検討を重ねたい。